

令和2年6月24日
特定非営利活動法人 千葉自然学校

NPO 法人千葉自然学校 令和1年度 事業報告

はじめに

新型コロナウイルスの影響で非常に厳しい社会情勢になってまいりました。理事、会員の皆様方には、日ごろより、NPO 法人千葉自然学校の運営にご尽力いただき感謝申し上げます。令和2年5月も終わろうとしている現在の NPO 法人千葉自然学校の現状を少しお伝えします。

千葉自然学校は、新型コロナウイルスの影響により、3月から5月の3か月間、南房総市大房岬自然の家、千葉県立大房岬自然公園、千葉県立君津亀山少年自然の家の受け入れを県・市の指導により停止するとともに、ヤックス自然学校、CNS 自主事業、受託事業などほとんどの事業が実施できない状況が現在も続いております。

そのため、3月、4月、5月の事業収入が激減するとともに、6月以降の事業実施についても社会情勢が不透明であり、いつ通常の事業が再開できるかわからない状況であります。このような危機を乗り切る方法として、現在、雇用調整助成金や持続化給付金等助成金の申請をしているところです。

次に、NPO 法人千葉自然学校の令和1年の事業を取り巻く状況について報告をいたします。この1年 NPO 法人千葉自然学校にとって大変な年であります。昨年9月と10月に発生した2つの大きな台風によって関東地方、甲信地方、東北地方など各地に甚大な被害をもたらし、特に台風15号は、房総半島を直撃し、南房総地域に有る私たちの施設に大きな影響を及ぼしました。南房総市大房岬自然の家や千葉県立君津亀山少年自然の家周辺の木の多くがなぎ倒され、活動できない状態がしばらく続きました。また、暖冬による雪不足の影響でヤックス自然学校や CNS 自主事業でもいくつかのスキーの事業を中止にしたり、事業によっては、雪のあるスキー場を探しまわるなど大変苦労をしました。さらに、2月の後半から3月にかけては、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、事業の中止による事業収入減少など、経済活動に多大な影響を受けました。個々の事業の状況については、後述します。

さて、そんな状況であった令和1年度の決算についてですが、法人全体で見ると、経常収支差額が450万円余りの黒字であります。また、個別事業である自然体験事業、受託事業、指定管理事業、シニア自然大学など、いずれの

事業においても黒字でありました。平成30年度の決算では、1,100万円の赤字であった状況から、令和1年度経常収支差額が黒字に転じた理由について述べます。

1つは、令和1年度に3名の正規職員が減員になったことにより人件費が削減されること。

2つ目は、キャリアアップ助成金を申請し、助成金収入があったこと。

3つ目は、令和1年度の夏休みの事業への応募状況が良く、天候にも恵まれ全ての事業を実施することができ、前年度より、事業収入が増えたこと。などがあげられます。

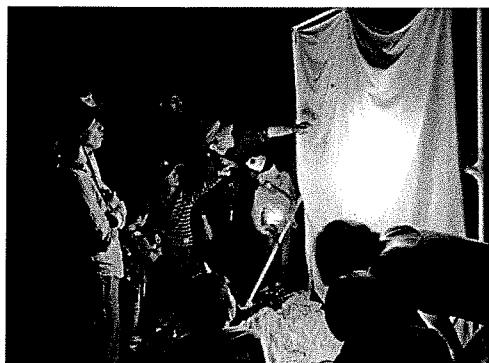
NPO法人千葉自然学校の事業がいつ再開でき、通常通りの運営ができるようになるかわかりませんが、今後の対応について、考え、準備することが今この時期に、大切であると切に感じます。新型コロナウイルス感染症の蔓延が落ち着いて日常を取り戻す頃には、社会に新しい価値観に基づく新しい取り組みが多く誕生するであろうと推測されます。また、現在のNPO法人千葉自然学校の在り方も見直すいいチャンスであるし、新しい時代の新しい価値観に対応するような、自然学校の在り方や事業の展開の仕方を模索する絶好の時期だと考えています。理事や会員の方々には、今後とも様々な局面でお世話になることだと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



南房総市 大房岬自然公園
2019年春



千葉自主事業
リバーエクスペリエンス



平群で遊ぼう
昆虫探し ライトトラップ



台風による倒木
千葉県立君津亀山少年自然の家

自然体験事業 千葉自主事業

スタッフの専門性、地域資源・人材・こだわりを活かした事業を展開しました。夏キャンプの参加者募集の広報に成功し、新規の参加者を迎えることができました。今後の課題として、繁忙期(夏季)以外の集客に繋げるべく、広報・プログラム開発等、参加者、社会のニーズに合う自然体験活動を目指していきたいと思います。

■令和1年度実績（平成30年度実績）

- | | |
|---------------|------------------------------|
| 1. 年間事業本数 | 28本(30本) △2本 (台風影響により 3 本中止) |
| 2. 年間稼働日数 | 60日(63日) △3日 |
| 3. 年間収益率 | 43%(33%) 10% |
| 4. 年間参加者数(延べ) | 1,026名(1,045名) △19名 |

*新規 277名(263名)／リピーター256名(320名)／リピーター率 51%(54%)

「人気事業は…」

(子ども対象)アウトドアキッズ～テントに泊まろう～／昆虫博士キャンプ／ちびっこ秘密基地づくり/海チルアドベンチャー(シニア対象)房総を歩こうシリーズ



「CNSらしい事業は…」

スタッフの専門性を活かした地域・人材・こだわり活用／幼児～シニアまで幅広い層の事業実施。また、経験を積んだボランティアのプログラム参加。※台風被害の状況下で急遽、県外プログラムを地元のキャンプボランティアと実施。葉山ハイキング(葉山御用邸前)



自然体験事業 ヤックス自然学校



キャンプリーダーの育成に力を入れ、質の良い自然体験プログラムの提供を目指し、活動を展開しました。令和1年度は、サマーキャンプにて例年より多くの新規参加者がありました。しかし、秋の台風と豪雨、年末の雪不足に加え、年度末のコロナウイルス感染症の影響で事業が計8本中止になり、年間の参加者及びリピーターの数が例年よりも減少しました。

■令和1年度実績（平成30年度実績）

- | | |
|---------------|-------------------------------|
| 1. 年間事業本数 | 59本(62本) △3本 (台風、コロナ禍により8本中止) |
| 2. 年間稼働日数 | 144日(144日) ±0日 |
| 3. 年間収益率 | 33%(35%) △2% |
| 4. 年間参加者数(延べ) | 3,851名(4,001名) △150名 |
- *新規 857名(620名)/リピーター 960名(1,113名)/リピーター率 53%(64%)

「ヤックス自然学校らしい事業」

子ども(幼児～中学生)とファミリーを対象に年間を通じた四季折々の体験プログラムの提供。



「人気事業…」

はじめてキャンプ（1泊2日小学生）／緑の忍者キャンプ（2泊3日小学生・幼児）
謎解き冒険キャンプ（3泊4日小学生）／GWファミリーキャンプ教室（1泊2日ファミリー）



受託事業

令和1年度は、芝山町が国の補助金をとって進める農泊推進事業にアドバイザー兼講師として携わる新規事業があり、今後の事業展開における大きなモデルとなりました。

平成30年度と比較すると、事業本数は10本程度減となっていますが、事業当たりの規模が変わり、昨年度ベースの事業収入となっています。

9月の台風15号による影響もありましたが、オーダーメイドの提案型事業が多いため、クライアントの理解を得て、事業内容に復旧作業を取り入れる等、被災地の力になる形に変えて活動を実施することができました。

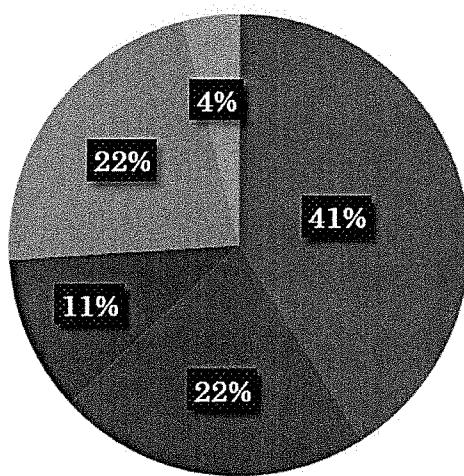
1. 令和1年度事業計画

- ・教育旅行、企業研修、CSR活動を中心とした新規事業開拓。
- ・ネットワークを活かした協働・連携による事業展開の充実。
- ・事業運営体制の見直しによる職員の人材育成。

2. 事業数 令和1年度 27件 (平成30年度 40件)

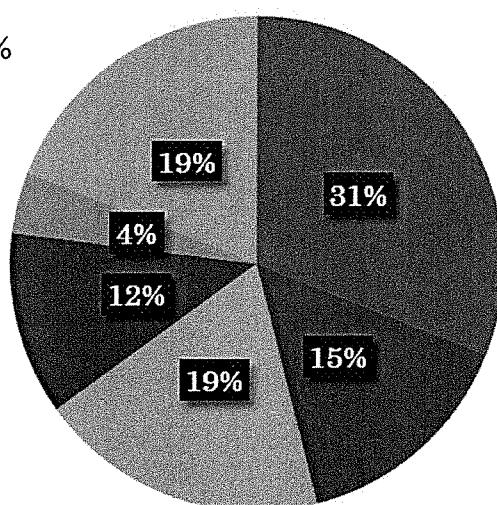
(1) 委託元

- 企業 41%
- 学校 22%
- 民間団体 11%
- 行政関係 22%
- 助成金 4%



(2) 事業ジャンル

- 教育旅行・団体旅行 31%
- 人材育成 15%
- CSR事業 19%
- 協働事業 12%
- 体験活動 4%
- 地域活性化 19%



●団体旅行、教育旅行(体験コーディネート)



私立高校オリエンテーション合宿
チームビルディング@山中湖
(東武トップツアーズ)



小学生の海水浴体験サポート
@南房総市(福島県みなみやま観光)
(連携:たてやま・海辺の鑑定団)



「海と日本プロジェクト」
伝統漁法体験@九十九里
(千葉テレビ)

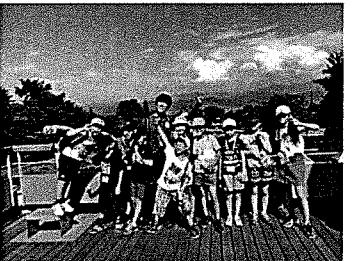
●行政からの受託事業



教職員研修「クラス作り」@柏市
(さわやかちば県民プラザ)



「都市農山漁村交流活性化事業」
農泊セミナー@千葉市
(千葉県農林水産部)



「あづみの探検隊」@安曇野市
(東金市教育委員会)

●CSR サポート



「食と農と環境の体験教室」@佐倉市
(ハウス食品グループ本社株式会社)
(連携:佐倉みどりネット)

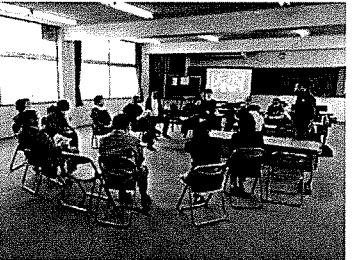


「環境教育プログラム支援」@市原市
(コスモ石油千葉製油所)
(連携:大山千枚田保存会)



「コスモわくわく探検隊」@大房岬
(コスモ石油株式会社)

●地域活性化



「農泊推進プロジェクト支援」
(芝山町農泊推進協議会)



「中山間ふるさと活性化チャレンジ事業」
農家復旧支援@南房総市
(千葉県農林水産部)



「南房総市に地域居住推進事業」
モニターツアー@南房総市
(南房総市)

指定管理 南房総市大房岬自然の家

独立自営の指定管理モデルの実践と経営基盤強化をテーマに運営。

年度当初は、例年どおり都内中学1年生のオリエンテーション合宿や県内小学校の利用が順調でありました。夏季休暇期間を経て9月9日未明の台風15号によって施設ならびに活動フィールドに大きな被害を受けたため、約1か月間受け入れを停止したことにより利用者数にも影響が出ました。南房総市ほか全国からの物的、人的支援を受け徐々に復旧しながら新年度を迎える矢先のウィルス禍であります。大変な逆境ではあるものの窮地を乗り切る新たな取り組みから、オンラインエコツアーの様な今までにない自然体験活動の在り方や発見が得られたのが収穫がありました。

■令和1年度実績（平成30年度実績）

- | | |
|----------|-----------------------------|
| 1. 利用団体数 | 206団体 (223団体) |
| 2. 利用者数 | 26,949名(延べ) (30,046名(延べ)) |
| 3. 宿泊者数 | 15,506名(人/泊) (17,244名(人/泊)) |
| 4. 主催事業 | 26事業 1,002名 (80事業 2,160名) |



「コースティング」一般・家族対象
荒々しい断崖の美しい風景を冒険的に堪能！



「磯の生き物発見ツアー」一般・家族対象
タコやカニなど身近な海の生き物に触れて学ぶ



「初心者向けチェーンソー講習会」
風倒木の安全な処理の仕方に特化した講習。
すべて満員御礼となった。



「穴釣り体験」
大房岬の風物詩になりつつある穴釣り。
地形を生かした初心者にもやさしい釣り。

指定管理 千葉県立大房岬自然公園

キャンプ場利用者や主催事業の参加者ニーズに合わせて、受け入れ体制の見直しや主催プログラム等を実施しました。GWが例年以上の大型連休となったこともあり、春から夏にかけてはキャンプ場利用や主催参加が例年以上に伸びました。しかし、9月の台風15号上陸により園内に多くの被害が出たため、1か月ほど公園を閉鎖することとなりました。全国から集まったボランティアの方と復旧を行い利用再開ができたが、例年と比較し来園者数やキャンプ利用数は大きく減少しています。

■令和1年度実績（平成30年度実績）

1. 来園者数 146,570名 (160,380名)
2. キャンプ場利用数 2,905張 5,522名 (3,495張 6,539名)
3. ビジターセンター利用者数 14,475名 (13,327名)
4. 主催事業 17事業 362名 (48事業 575名)

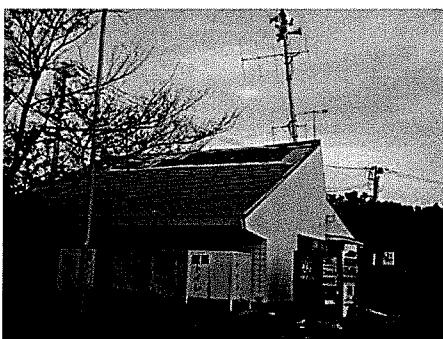
■台風15号の被害復旧作業について

台風15号上陸の為に倒木の発生や建物の破損など壊滅的な被害が出ました。

復旧のために延べ700名を超えるボランティアの方が全国から駆けつけていた
だき、職員とともに作業を進めました。大きな事故やケガもなく復旧をすすめ、一
般利用を再開することができました。



園路をふさぐ倒木



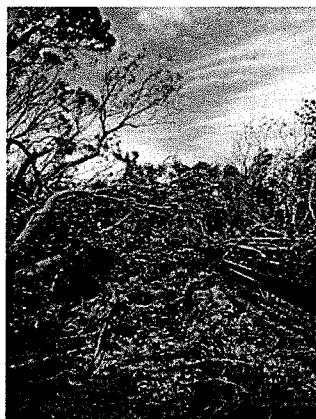
強風によりはがれた屋根



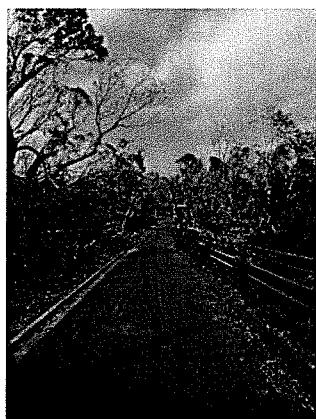
集まつたボランティアの方々



復旧作業の様子



復旧前



復旧後

指定管理 千葉県立君津亀山少年自然の家

昨年秋に通過した台風15号及び19号の影響により、約1,400名のキャンセルがありました。また、2~3月には新型コロナウイルスの影響により約3,500名のキャンセルがあり、合計で約4,900名の減少となりました。これにより目標を下回る実績となりました。利用団体数の504団体は平成28年度と同じだが、利用者数を同年と比較すると大きく減少しています。団体規模の縮小化が顕著に表れています。

活動プログラムにおいては「地域や会員校との連携を深めた広域プログラムの実施」を目指し、当施設での活動のみならず近隣会員校や地域団体との連携強化に努めました。

①利用状況 目標達成率 平均78.8%

■令和1年度実績（平成30年度実績）

- | | |
|----------|-----------------------------|
| 1. 利用団体数 | 504団体 (576団体) |
| 2. 利用者数 | 35,235名(延べ) (44,425名(延べ)) |
| 3. 宿泊者数 | 15,996名(人/泊) (20,773名(人/泊)) |

②主催事業 参加者満足度 96.5%

■令和1年度実績（平成30年度実績）

- | | |
|---------|-----------------|
| 1. 事業数 | 50本 (51本) |
| 2. 参加者数 | 3,056名 (3,197名) |



「森のアスレチック」

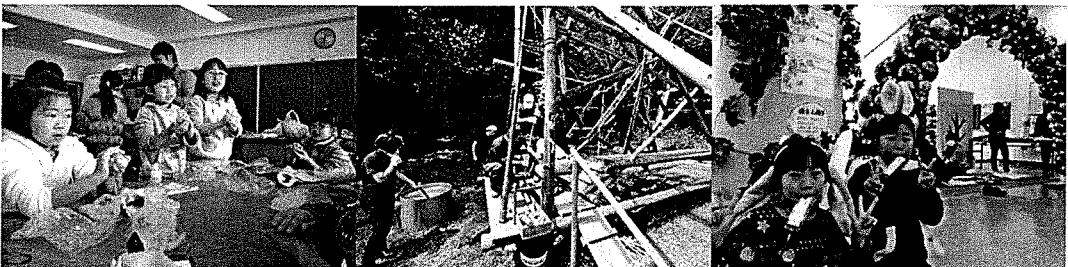
対象:親子・一般

「きみかめ森のようちえん」

対象:乳幼児(3歳まで)と保護者

「ヒーリングプラネタリウム」

対象:親子・一般



「ひとつ生きる」

会員校 Live Stock との協働事業

「日本を代表する伝統技術

上総掘り体験」

NPOかずさから引き継いだ活動

「一日だけの、森の童話館」

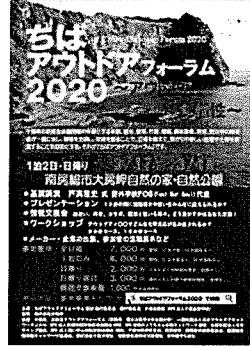
地域団体、ボランティアとの共催事業

地域協働部 ネットワーク事業

当事業では、会員相互を図るため、千葉県の体験活動を発展させるために以下のことを実施しました。

特にちばアウトドアフォーラムは、新たなるネットワークの構築、知っているようで知らない団体ました個人との繋がりの場づくりであり、そこからはじまる新たなビジネスチャンスの場でもあります。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、直前に延期となりました。



1. ちばアウトドアフォーラム2020実行委員会の発足

設立(活動)目的

千葉県の自然を体験活動の手段とする体験、観光、教育、行政、環境、農林漁業、芸術、防災等の関係者が一堂に会し、情報を交換し、交流を図ることで、立場を超えて、繋がりや新しい価値や仕事を創造することを目的とする。

主たる活動内容

ちばアウトドアフォーラム実行委員会、フォーラム2020の開催

実行委員会構成メンバー(発起人)

NPO 法人千葉自然学校 理事長 久保田康雄、一般社団法人森のようちえんはっぴー 代表 沼倉幸子、エルフィン体験共育くらぶ 代表 北澤伸之、NPO 法人プレイフルエンタープライズわかば 代表 相澤孝紀、一般社団法人あーす楽園 代表 深山昭彦、鹿野山自然学校 代表 豊島大輝、館山市地域おこし協力隊 沖浩志、養蜂 立石貴久、彫刻家 安部大雅、南房総市大房岬自然の家副所長 白井健、NPO 法人千葉自然学校 自主事業課長 佐藤昭仁

スケジュール

11月中旬 フォーラム準備会の開催

12月上旬 フォーラム実行委員会の開催

SNS を利用して意見交換、各種手配を行なう

開催日程、場所、内容、広報等を協議、手配、作成

基調講演 戸高雅史(野外学校 FOS 代表)

プレゼンテーション 10団体(個人)

ワークショップ 90分枠／4本 180分枠／5本

1月上旬 理事、会員校へ案内の発送

1月下旬 SNS で参加者募集開始、後援申請

2月下旬 予約者数 50名、後援数 10団体

感染症によるフォーラム開催について協議 → 開催延期の決定



ワークショップ
ツリークライミング

2. エリア事業部会

1) 北総エリア事業美会 2回開催

7月 第1回事業部会 海の駅九十九里マルシェ打合せ
10月 九十九里マルシェ2019 海の駅九十九里
農作物・加工品・雑貨の販売とクラフト体験。
来店者数150人、全体売上げ63,530円
(出店料として海の駅九十九里へ売上の10%、
出店団体から北総事業部会へ売上の10%を計上)

2) 上総エリア事業部会 1回開催

自然体験プログラムに伴う研修の実施

1月 チェーンソー講習会 伐木等業務特別教育

3) 南総エリア事業部会 1回開催

～南房総体験活動ネットワーク協議会として～

7月 第1回連携協働会議

他 千葉市農山村留学 学校打ち合わせ会

3. 会員校まわりの実施

台風15号の被害状況の把握とお見舞いに 9/15(日)久保田理事長、桜井義維英氏で南房総エリア会員校を巡回訪問。

たてやま・海辺の鑑定団、千倉オレンジセンター、千倉民宿組合(政右衛門)、大山千枚田保存会。

その他、エリア担当者より会員校の状況を電話連絡にて把握。

9/24(火)沖ノ島倒木処理にスタッフ派遣など。

10/7(月)かずさの森へ伐採作業中の事故のお見舞い。

4. 会員校サポート・協働事業等

会員校サポート 環南みんなの楽校 受付業務委託、指導者派遣

協働事業 NPO法人佐倉みどりネット ハウス食品受託事業

千葉市農山村留学事業における南房総市内民宿と連携

NEALリーダー養成講座の開催など

5. ボランティアマッチング

2月 千葉シニア自然大学 VS 会員校

他



上総事業部会 チェーンソー講習会
伐木等業務特別教育の様子

地域協働部 千葉シニア自然大学 第8期

令和1年度の受講生数は、本科・専攻科をあわせると90名となりました。

平成24年度の開講以来、最も多くの受講生を迎えての一年となりました。

本科では、授業ごとにアンケート調査を行っておりますが、実施講座について、「興味あり」との回答が92%となっています。

講師の皆さんからも、受講生の積極的な姿勢について高評価を頂いています。

講座の構成等については、質の高い講座づくりの観点から鋭意見直しに努めています。

なお、令和二年度は、前年度を上まわる受講生数となりましたが「新型コロナウイルス」の影響により、安全性と楽しい受講を目指す観点から休講とし、次年度に捲土重来を期すこととしました。

本科	年間56講座 受講生 27名
専攻科	A:ちばの自然誌他 15名、B:ちば天文学 11名
	C:気象・地震・火山 19名、D:自然と俳句 18名 計 63名

公開講座	11/ 7	千葉シニア 地震と津波の科学 講師:宍倉正展
	11/14	千葉シニア 第8回自然誌 講師:西田治文
	11/15	東京シニア 自然と哲学 講師:加藤尚武
	11/15	東京シニア 日本の火山概論 講師:荒牧重雄
	2/21	東京シニア 人と動物の関係論 講師:林良博
	2/21	東京シニア 日本の自然環境政策 講師:渡辺綱男
課外研修	5/30～5/31	春の宿泊研修 国民宿舎サンライズ九十九里
	7/7～7/9	第4回北海道グリーンツーリズム 厚真町復興支援ツアー 参加者数33名
	10/17	富士山ツアーアイ木ヶ原樹海、風穴 講師:中村俊彦氏
	10/24	収穫祭 佐倉園場、フォレストイン岩名
	1/30～1/31	秋の宿泊研修 内浦県民の森
	2/13	ボランティアマッチング会 会員校他
	1/16	授業見学会 火山概論 講師:高橋直樹

房総自然の会(同窓会) 各期幹事による定期打合せ会開催

その他 NEALリーダー取得
CNS事業、古民家ろくすけの会、援農、
体験農園in岩名、里山での地域
活動、災害ボランティアへの参画。



災害ボランティア活動
古民家ろくすけ

地域協働部 古民家ろくすけ

台風の被害も受けましたが、地元の皆さんと片づけを行ない、これまで以上に地域社会に溶け込み根付いてきたことを実感した一年でした。

古民家ろくすけは、農泊施設として登録していますが、まずは当法人が行う子どもたちのホームステイキャンプの利用を優先し、その他の時間で農泊、日帰り利用を受け入れると共に、耕作放棄地等を活用して農作物の栽培、加工、販売等を行ない、少しでも地域活性化に役立つよう活動を行ないました。

<ろくすけ事業>

1. ホームスティー・農泊型宿泊、日帰り利用の受け入れ
　　ホームスティー利用 32泊50日(888名)
　　農泊利用 9泊15日(127名)
　　二地域居住推進事業利用 2泊 4日(22名)
　　日帰り利用 9 日(107名)

2. 料理・加工講習会の開催、加工品の販売

- みそづくり講習会 11回(73名)
みそ・ろくすけもち等の加工品の販売



3. テレビ等の撮影利用 2回

4. 建物・環境の保全

台風により倒木、長屋門屋根の損傷

「ろくすけの会」、米作りグループ、ヤックス自然学校キャンプ参加者、県内農業関係高校生有志、千葉自然学校スタッフで平久里下住民と道路及び倒木の片付けを行うとともにスタッフにより倒木の片付け、長屋門屋根の補修を行った。

また、耕作放棄田を借用し、茅場の再生に挑戦。



<ろくすけの会の活動支援>

1. ろくすけ環境整備・そら豆・大豆栽培支援
2. 援農・地域支援

IT 企業米作りグループから
チエンソーを寄贈

<平群ツーリズム協議会との連携>

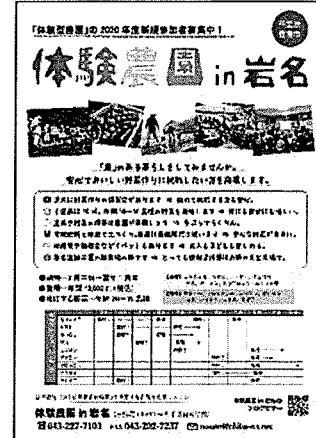
1. 平群を歩く、郷土料理塾、地元子ども対象の川遊び・生き物観察会、
2. 犀揚げ大会開催
3. 県「中山間ふるさと活性化チャレンジ事業」による農業関係高校生の受け入れ
4. 都内在住ファミリーの米作り体験受け入れ

地域協働部 体験農園 in 岩名

6年目となり、利用者間で経験の長い方が新規の方をフォローしてくれる等、体験農園らしい運営スタイルが定着してきました。(2019年度:29組中8組が新規参加)

台風による被害は、看板と屋外休憩所の破損にとどまり、作物への影響はほとんど見られませんでした。

年々、スタッフの負荷が高くなってきていたため、千葉シニア自然大学の OBOG に呼び掛け、サポートスタッフの増員に取り組んでいます。



1. 体験農園の運営

(1)面積:3,199m²

構成:体験農園(30区画)、研修圃場、こども農園 利用者数:30組

(2)講習会等の開催

①栽培講習会 年間21回

(新規利用者向け基礎講座2回、栽培講習会18回、メンテナンスデー1回)

②交流会 3回

③外部講師による病害虫に関する勉強会 1回

④みそ作り講座 1回



栽培講習会



交流会



勉強会

2. 食育・農育事業「親子で行こう！畑の楽校」の実施

開催時期:6月、7月、10月、11月、12月

対象:幼児小学生の親子 各回定員15組30名 延べ人数25組82名

3. 人材育成「千葉シニア自然大学」実習サポート

基礎コースの実習(6月、11月)に研修圃場を提供し、落花生・さつまいもの植え付けから収穫までの圃場管理と収穫祭開催の支援を行いました。